

- 問1 弥生時代の祭祀で使われた青銅器のうち、釣鐘のような独特の形状をした道具について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2026年 滋賀県公立入試 類似）
- 非常に鋭い刃を持ち、敵と戦うための武器や木材を加工する工具として使われた。
  - 表面に当時の狩猟や農耕の様子、生活風景を反映した文様が刻まれている。
  - 土でつくられ、古墳の周囲に並べることで死者の霊を慰める役割を果たした。
  - 仏教の伝来とともに寺院に設置され、人々に時刻を知らせるために打ち鳴らされた。
- 問2 表面に当時の生活の様子や動植物、流水文などの模様が描かれ、上部に「鈕（ちゅう）」と呼ばれる持ち手のような部分がついている、弥生時代の祭祀用青銅器の名称は何か。（2026年 新潟県公立入試 類似）
- 銅鐸
  - 埴輪
  - 銅矛
  - 銅戈
- 問3 3世紀の倭（日本）において、邪馬台国の女王である卑弥呼が中国の魏へ使節を送った際、皇帝から授かったとされる称号と、その証として贈られたものの組み合わせとして適切なものはどれですか。（2019年 広島県公立入試 類似）
- 倭王の称号と、仏教の経典や寺院の設計図
  - 親魏倭王の称号と、金印や百枚の銅鏡
  - 大王の称号と、鉄製の武器や農具
  - 漢委奴国王の称号と、金印
- 問4 弥生時代に製作された青銅器の一種で、兵庫県の五十六点や島根県の五十四点をはじめ、滋賀県や和歌山県といった近畿地方の府県で多くの出土が確認されている、豊作を祈るなどの祭礼に用いられた道具を何というか。（2024年 京都府公立入試 類似）
- 勾玉
  - 銅矛
  - 石包丁
  - 銅鐸
- 問5 弥生時代の食生活の変化をまとめた資料では、この時期に稲作が広まったことが記されています。これと同じ時代、1世紀の日本の様子について述べた、中国の歴史書『後漢書』東夷伝の内容として正しいものを選びなさい。（2022年 広島県公立入試 類似）
- 推古天皇の使者として小野妹子が隋に渡り、対等な外交を求めた。
  - 倭の奴国の王が後漢に使いを送り、光武帝から金印を授けられた。
  - 倭の五王が中国の南朝に使者を送り、朝鮮半島での軍事的地位を認めさせた。
  - 卑弥呼が魏の皇帝に使いを送り、「親魏倭王」の称号と金印を授けられた。
- 問6 弥生時代の社会において、大陸から伝わった「青銅器」と「鉄器」の使い分けに関する説明として、最も適切なものはどれですか。（2016年 長崎県公立入試 類似）
- 青銅器は主に通貨として流通し、鉄器は主に古墳の副葬品としてのみ使われた。
  - 青銅器は祭りの道具として用いられ、鉄器は工具や農具として用いられた。
  - 青銅器は書院造のような武家の住居を飾る装飾品として用いられた。
  - 青銅器は鋭い切れ味を活かして農具に、鉄器は祭りの楽器に用いられた。
- 問7 弥生時代に朝鮮半島から稲作が伝来したことで、縄文時代とは異なる社会状況が生まれました。生産力の向上や定住生活に伴って発生した出来事について、適切に説明しているものはどれですか。（2023年 茨城県公立入試 類似）
- 冠位十二階が定められ、個人の才能や功績に応じて役職が与えられた。
  - 狩猟や採集が中心の生活となり、人々は獲物を求めて常に移動し続けた。
  - 収穫した稲の分配や土地の所有をめぐる、むら同士の争いが発生した。
  - 仏教が伝来し、各地で大規模な寺院の建設が始まった。
- 問8 弥生時代の集落で見られる、地面を円形や方形に掘り下げて床を作り、そこに数本の柱を立てて屋根をかけた、当時の人々が生活していた一般的な住居形式を何といいますか。（2018年 奈良県公立入試 類似）
- たて穴住居
  - 寝殿造
  - 合掌造り
  - 高床倉庫
- 問9 弥生時代に本格的に始まった稲作において、収穫の際に用いられた石包丁の使用方法について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2017年 千葉県公立入試 類似）
- 土を掘り返して苗を植えるために用いられた
  - 稲の穂の部分を摘み取るために用いられた
  - 収穫した後の脱穀を行うために用いられた
  - 稲を根元から刈り取るために用いられた
- 問10 3世紀の日本の様子が記された中国の史書『三国志』の「魏志」倭人伝において、約30の国々をまとめ、中国の魏に使いを送ったとされる邪馬台国の女王は誰ですか。（2025年 長野県公立入試 類似）
- 推古天皇
  - 持統天皇
  - 北条政子
  - 卑弥呼
- 問11 邪馬台国の女王卑弥呼に関する記述として、最も適当なものはどれか。（2016年 北海道公立入試 類似）
- 夫である天皇の死後、軍を率いて朝鮮半島へ出兵したという伝説がある。
  - 魏に使いを送り、「親魏倭王」の称号や多数の銅鏡を授かった。
  - 日本で初めて本格的な都城である藤原京を造営し、国家体制を整えた。
  - 摂政である聖徳太子とともに、冠位十二階や十七条の憲法を定めた。
- 問12 日本列島と朝鮮半島の位置関係を示した地図において、九州地方の北部（現在の佐賀県付近）に位置し、大陸との交流や当時の防御の様子を今に伝える弥生時代の代表的な遺跡はどれか、選びなさい。（2020年 和歌山県公立入試 類似）
- 吉野ヶ里遺跡
  - 登呂遺跡
  - 三内丸山遺跡
  - 岩宿遺跡
- 問13 弥生時代に大陸から稲作とともに伝わった青銅器のうち、表面に幾何学模様や当時の生活・自然の様子が描かれ、釣鐘のような独特の形状をしている道具の主な用途として最も適切なものを選びなさい。（2023年 三重県公立入試 類似）
- 豊作などを祈るための祭りの道具
  - 土を耕し田植えをするための農業用の道具
  - 獲物を捕らえたり身を守ったりするための狩りの道具
  - 食料を保存し煮炊きをするための道具
- 問14 古代日本の生活文化について述べた次の文のうち、衣料に関する記述として正しいものを選びなさい。（2026年 栃木県公立入試 類似）
- 弥生時代には稲作とともに綿の栽培も伝わり、民衆の服の多くは綿製であった。
  - 当時の技術では植物繊維を利用することができず、衣服のすべてが動物の皮で作られていた。
  - 古代の日本列島では乾燥した気候を活かした羊の飼育が盛んで、羊毛が主な原料だった。
  - 古墳時代の有力者は、麻のほかに絹を用いた衣服を身につけることもあった。